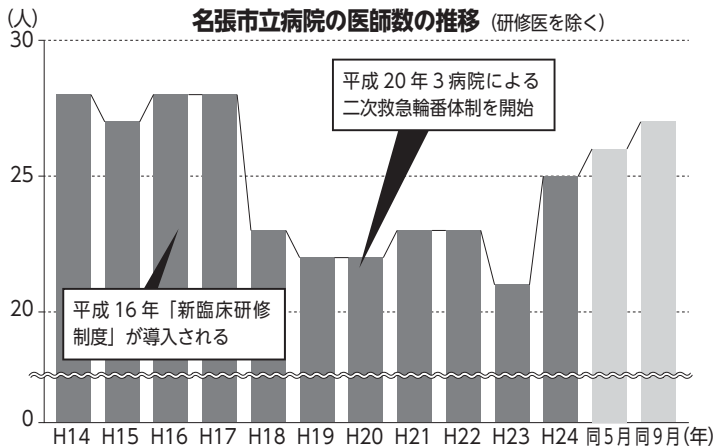




2012年(平成24年) 4月22日発行

- 主な内容
- 2~3.....名張市立病院だより「きらり」
 - 4~5.....がん検診 6.....こども支援センターかがやき案内
 - 7.....ひまわり、国津の社の行事 8.....二次救急実施病院

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



人口10万人あたりの医師数 (平成20年3月末) ※出典...医師・歯科医師・薬剤師調査 (厚生労働省)

全国平均 213人			三重県平均 183人		
北勢地域	中勢地域	南勢地域	伊勢志摩地域	東紀州地域	伊賀地域
四日市市、鈴鹿市、亀山市など	津市 ※伊賀を除く	松阪市など ※伊勢志摩を除く	伊勢市、志摩市など	尾鷲市、熊野市など	名張市・伊賀市
157人	309人	187人	180人	147人	115人

常勤医師 6人増

地域医療を守っていくため、市立病院では医師の確保を最重要課題とし、取り組んできました。4月には一定の取組み成果が表れ、昨年4月と比べ常勤医師数が4人増となりました。また、5月、9月にも常勤医師各1人の増員を予定しています。今号では、市立病院の医師確保の取組みをご紹介します。

名張市立病院
健康福祉政策室
☎61・1100
☎63・7579

市立病院の医師確保の取組み

伊賀地域の深刻な医師不足

伊賀地域は人口10万人あたりの医師数が115人(平成20年)。県内でも最も医師が不足している地域です。全国的に地方には医師が少ない傾向にありますが、特に地方の病院に勤務する医師(勤務医)の不足は深刻化しています。その原因の一つが、平成16年に導入された「新臨床研修制度」です。これにより、医学部卒業後は、自ら研修先を選べるようになり、都市の病院に研修医が集中。地方の大学病院は、これまでのように各病院に医師を派遣することが難しくなりました。

医師確保の取組み

●魅力ある病院づくり

地域医療を守るために、市立病院では、医師の確保を最重要課題とし、大学などの医療機関に医師派遣要請を行ってきました。また、医師確保のため、医師の処遇の改善や、国の地域医療再生基金を活用した医療機器の更新、ドクターラーク(医師事務作業補助者)の導入など、医師にとって魅力ある病院づくりに取り組んでいます。

●研修医の積極的な採用

「新臨床研修制度」が導入される中、平成17年4月、市立病院は臨床研修病院の指定を受け、大学卒業後の研修医を積極的に受け入れています。そうした中、今年4月には新たに4人の研修医を受け入れることになり、研修医は合わせて6人になります。また、2年間の前期研修を終えた2人の医師が引き続き内科医師として勤務することになりました。今後も積極的に研修医を受け入れることにより、医師確保につなげます。

三重大学に寄附講座を開設 大学から医師派遣

市は、伊賀市とともに三重大学と、3月19日、寄附講座設置の協定を締結し、三重大学に「伊賀地域医療学講座」を開設しました。寄附講座とは、大学などが行政や民間企業から受けた寄附を活用し、研究や調査を進めるシステムです。この講座では、内科系や外科系の医師7人によって、「名張市立病院」「岡波総合病院」「上野総合市民病院」の機能分担や連携、災害時の相互連携などの調査研究を行います。また、研修医への教育や診療支援も行われます。

これに伴い、市立病院で教育・研究などに取り組むために、4月1日、三重大学から新たに常勤医師1人、非常勤医師1人が派遣されました。さらに9月にも、1人の常勤医師が派遣される予定です。なお、寄附講座の設置期間は、4月1日から平成26年3月31日までの2年間で、寄附金額は、名張市、伊賀市それぞれ年間1,850万円(国の地域医療再生基金を活用しています)となります。



左から、登三重大学医学部長、伊賀名張市立病院院長、亀井名張市長、内田三重大学長、内保伊賀市長、三木上野総合市民病院院長

名張市立病院だより「きらり」(2・3ページ)で新任医師をご紹介します。